

200940064A

厚生労働科学研究費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業

献血推進のための 効果的な広報戦略等の 開発に関する研究

平成21年度 研究報告書

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
HIV/AIDS 先端医療開発センター長

白阪 琢磨

厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業

献血推進のための効果的な広報戦略等の開発に関する研究

平成 21 年度 研究報告書

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
HIV/AIDS先端医療開発センター

白阪 琢磨

目 次

■ 総括研究報告

- 1 献血推進のための効果的な広報戦略等の開発に関する研究…………… 7

研究代表者：白阪 琢磨（独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 臨床研究センターエイズ先端医療研究部）

■ 分担研究報告

- 2 供血者の実情調査と献血促進および阻害因子に関する研究…………… 17

研究分担者：山口 繁（日本赤十字社 血液事業本部）

- 3 輸血液の需要に関する研究…………… 25

研究分担者：秋田 定伯（長崎大学病院）

- 4 献血推進に向けた職員の研修方法に関する研究…………… 47

研究分担者：掛川 裕通（日本赤十字社 人事部）

- 5 輸血や血液製剤で治療を受ける患者およびその家族へのアンケート調査について…………… 49

研究代表者：白阪 琢磨（独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 臨床研究センターエイズ先端医療研究部）

研究協力者：大平 勝美（社会福祉法人はばたき福祉事業団）

柿沼 章子（社会福祉法人はばたき福祉事業団）

- 6 若者における献血意識と献血行動の促進および阻害因子に関する研究…………… 51

研究分担者：田辺 善仁（株式会社エフエム大阪）

- 7 血液推進施策の効果に関する研究…………… 55

研究分担者：田中 純子（国立大学法人広島大学大学院 歯薬学総合研究科）

総括研究報告

1

献血推進のための効果的な広報戦略等の開発に関する研究

研究代表者：白阪 琢磨（独立行政法人国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター長）

経緯・目的

医学の進歩によって臓器移植が可能になるなど、治療における血液の需要は、ますます高まる傾向にあるが、その一方で、献血者数、特に若年層での減少が指摘され、献血液の確保が大きな課題となっている。若年層での献血者の減少は、その後の献血者数の減少にいつそう繋がると予想され、今後の献血液確保がさらに懸念される。献血液の安全については、わが国の献血液は非常に優れた検査によって安全な血液が選別されており、この点、わが国は世界でも類を見ないくらい安全な輸血液を供給できていると考えられる。しかしながら、献血者での例えば年間 HIV 陽性数および陽性率の上昇（平成 19 年度、10 万人あたり 2.06 件、平成 20 年度、10 万人あたり 2.107 件、血液事業部会）が引き続き指摘されている。献血時に HIV や HBV などの感染が検出されれば、その血液は使用されないため輸血での感染には繋がらない。しかし、献血者で HIV 等の感染が判明する例が多い状況が続けば、検査をすり抜ける感染初期の血液を検出できない可能性がゼロではないので、引き続き安全な献血液の確保が必要である。安全な血液を如何に多く確保するかが今後の献血において重要な課題の一つと言える。本研究の目的は、今後の安全な血液の確保のために、献血の実情を明らかにし、献血離れの現象があるとするれば、その原因の解明を行い、献血推進に向けた効果的な広報を開発する事にある。【研究班構成】本研究班は次の 6 名の研究分担者（括弧内は分担研究名、敬称略）、秋田 定伯（輸血液の需要に関する研究）、掛川 裕通（献血推進に向けた職員の研修方法に関する研究）、田辺 善仁（若者における献血意識と献血行動の促進および阻害因子に関する研究）、石川 隆英（供血者の実情調査と献血促進および阻害因子に関する研究）、田中 純子（献血推進施策の効果に関する研究）と、研究協力者として大平勝美氏（社会福祉法人 はばたき福祉事業団）らに参加願った。

研究方法

本研究では、需要に見合った安全な献血を推進するために、献血液の需要と供給状況を、まず、把握すると共に、並行して効果的な広報戦略に付き研究を進める。本研究では次の点を明らかにする。1) 需要者側の輸血に必要な血液のニーズ、2) 献血者、特に若年層における献血の実態、3) 献血者、特に若年層における献血行動の促進因子と阻害因子、4) これまで実施された献血促進の広報の戦略。次に、以上の研究と並行して、5) 対象とする年齢層、例えば、若年層への献血行動促進に向けた広報の戦略を立案し、1)～4) の結果を踏まえた広報を戦略的に展開する。6) 最終的に、広報前後での献血行動の分析から広報の効果を評価する事とする。献血推進の広報に必要な伝えるべきメッセージは何か、対象層に応じたメッセージの伝える媒体と伝え方は何かなどを十分に解析、検討して広報の戦略を立て、広報の効果については献血者の属性毎の献血数の分析やアンケート調査などを行い評価を行うこととする。研究の効率を考えて、研究対象

層は若年層を中心とし、研究によってはその他の年齢層をコントロールとして設定する。献血のモニターも、可能なら大阪のある献血ルームに限るなど研究対象のポイントを絞り込んで効果を評価する事とする。効果的な広報を開発できれば、他の年齢層など、属性や地域に応じた戦略的な広報の開発を目指す。研究代表者は研究の総括を行い、研究者相互の研究の進捗状況に応じて、必要な調整を行い広報の効果を評価する。研究分担者の秋田（血液需要研究班）は研究代表者と共に、献血の需要の現状を調査と献血液の利用者の調査を実施し、血液の安全性や必要性について伝えるべきメッセージを広報研究者に提供する。研究分担者の田辺（戦略的な広報研究班）は、具体的な媒体の選択とメッセージの提供方法などを検討し、対象とする若年層に効果的に浸透する広報の戦略を立案し、実施する。研究分担者の掛川および石川（血液センター班）は献血者の実態把握を行い、モデルの献血室での献血者についての調査や献血数の推移等をモニターする。【主な結果】次の研究事業を実施した。1) 需要者側の輸血

に必要な血液のニーズ調査を実施し、特に輸血により救命あるいは治療を実施されQOLを大きく向上できた献血液の受益者本人および家族の意識調査を実施し、献血の有用性と需要を明らかにできた。2) 献血者、特に若年層における献血の実態を明らかにし、若年層における献血行動の促進因子と阻害因子の検討を進めた。3) 日本赤十字社のこれまでの献血促進のための広報戦略を踏まえ、今後の献血推進のための広報戦略を検討、特に若年層をターゲットとした献血行動促進に向けた広報の戦略を立案した。以上の研究結果を踏まえ、一部広報を戦略的に展開を試みられた。4) モデルとなる献血室での献血数等をモニター、献血者の属性毎の献血数の分析やアンケート調査などが可能な体制は一部整えた。研究班での検討を参考として、研究分担である FM 大阪の協力の下、研究分担の日本赤十字社で戦略的広報 (<http://ken-love.jp/hatachi/>) を開始し、広報の効果について評価を行った。【結論】 献血による輸血の治療を受けた患者および家族へのアンケートから献血と輸血の重要性が再認識された。献血推進に向けた広報の開発によって一定の効果がある事が解析によって明らかにされた。これらの成果は広報担当者にフィードバックする事によって、新たな広報開発に繋がられると考える。

健康危険情報

該当なし

研究発表

該当なし

知的財産権の出現・登録状況

該当なし

平成21年度厚生労働科学研究費補助金
輸血関連研究班第2回合同班会議
日時：平成22年2月6日(土)13:00～17:00 場所：国立感染症研究所 戸山庁舎

**献血推進のための効果的な広報戦略等の開発
について**

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
臨床研究センター エイズ先端医療研究部
白阪 琢磨

平成21年度厚生労働科学研究費補助金
輸血関連研究班第2回合同班会議
日時：平成22年2月6日(土)13:00～17:00 場所：国立感染症研究所 戸山庁舎

献血推進のための効果的な広報戦略等の開発に関する研究

<経緯>
臓器移植など治療における輸血液の需要の増加
献血者での年間HIV陽性数および陽性率の上昇
(平成20年度、10万人あたり2.11件 血液事業部会)
安全な血液を如何に多く確保するかが重要な課題
供血者、特に若年層の献血離れの傾向が指摘

<目的>
今後の安全な血液の確保のために、献血の実状を明らかにし、
献血離れの現象があるとすれば、その原因の解明を行い、
献血推進に向けた効果的な広報を開発する。

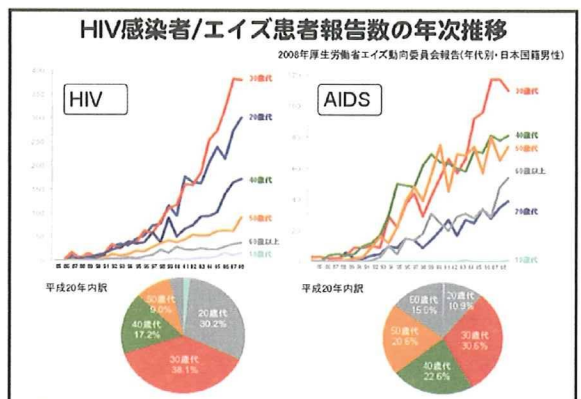
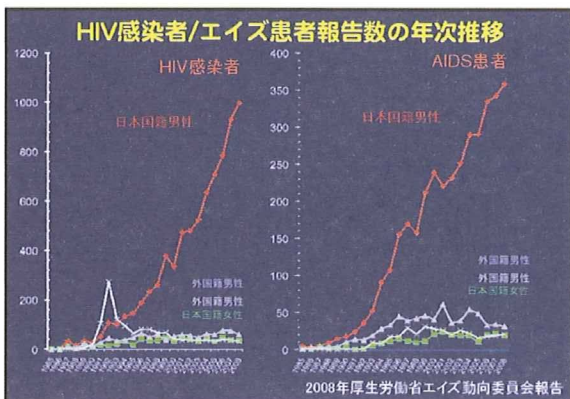
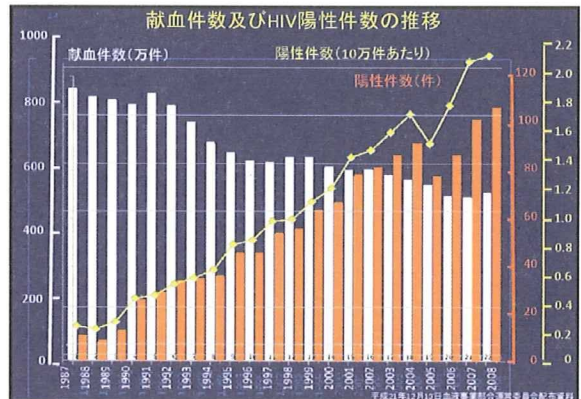
<研究分担者>
秋田 定信 輸血液の需要に関する研究
掛川 裕通 献血推進に向けた職員研修方法に関する研究
田中 栞子 献血推進施策の効果に関する研究
田辺 善仁 若者における献血意識と献血行動の促進および阻害因子に関する研究
山口 繁 供血者の実情調査と献血促進および阻害因子に関する研究

<研究協力者>
はばたき福祉事業団 大平 秀美、柿沼 章子
長崎大学医学部付属病院 小林 初子、江藤 栄子、能田 美穂、長池 恵美、松田 三喜子
日本赤十字社 菅原 拓男、土田 幸司、照井 健良
FM大阪 小野田 敬乙、山本 シュウ

平成21年度厚生労働科学研究費補助金
輸血関連研究班第2回合同班会議
日時：平成22年2月6日(土)13:00～17:00 場所：国立感染症研究所 戸山庁舎

献血推進のための効果的な広報戦略等の開発に関する研究


安全な血液を如何に多く確保するか



献血者におけるHIV陽性率増加への対応 ～疾病対策課と血液対策課の連携～


○ RED RIBBON TALK & LIVE(H20.5.27 於東京・渋谷)

HIV検査の浸透・普及のためのイベント「RED RIBBON TALK & LIVE」に献血推進キャラクター「けんつけちゃん」が登場。若年層に対して、HIV検査目的の献血の危険性を訴えた。



○ HIV検査普及週間キャンペーンin大阪 (H20.5.31 於大阪・なんば)

HIV献血陽性者の増加が特に顕著な大阪・アメリカ村において、日本赤十字社も参加して広報チラシを配布。アメリカ村・三角公園で開催された若年層向けの啓発イベントにも「けんつけちゃん」が登場し、HIV検査目的の献血の危険性を訴えた。

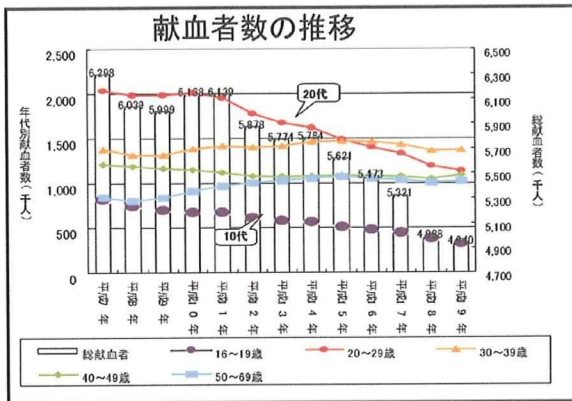


平成21年度厚生労働科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業

献血推進のための効果的な広報戦略等の開発に関する研究

安全な血液を如何に多く確保するか

若年者層の献血離れの傾向



献血構造改革の推進

①若年層献血者数の増加
10代・20代を献血者全体の40%まで上昇させる。
(平成16年度:35%、平成19年度:29.2%)

②安定的な集団献血の確保
集団献血等に協力する企業数を倍増させる。
(平成16年度:23,890社、平成19年度:34,059社)

③複数回献血者の増加
複数回献血者を献血者全体の35%まで上昇させる。
(平成16年度:27%、平成19年度29.5%)

○近年、わが国では献血者数の減少傾向が続いており、特に若年層の献血が目立って減少してきていることから、将来の血液製剤の安定供給に支障を来すことが懸念されている。

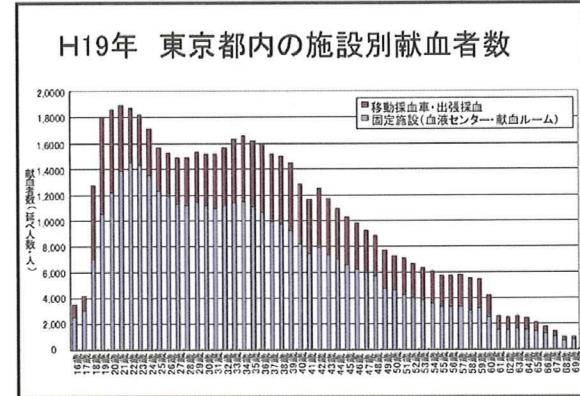
○こうした状況を踏まえ、医学、法律等の有識者の他、患者団体、採血事業関係者、学校関係者、報道機関関係者、地方自治体関係者等により構成された検討会を設置し、今後の献血推進方策について様々な角度から検討を行い、以下のとおり中間報告がまとめられ、平成20年12月25日に開催された血液事業部会に報告された。

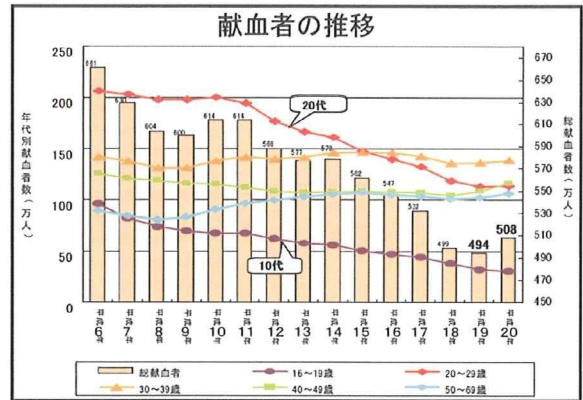
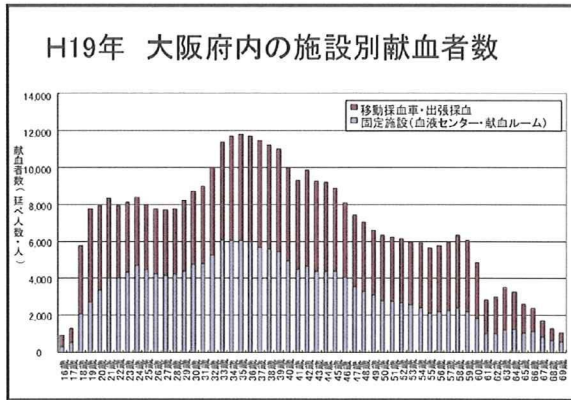
(1) 社会や学校の環境変化に対応した献血推進方策

- ① 高校生献血のあり方
- ② 学校教育における啓発
- ③ 献血環境のあり方
- ④ メディア等を利用した広報戦略のあり方
- ⑤ 低比重者などへの対応
- ⑥ 200mL献血の今後のあり方

(2) 採血基準の見直し

(3) 今後の課題





班会議 @東京

- 第1回 2009.5.18(月)
- 第2回 2009.6.22(月)
- 第3回 2009.7.27(月)
- 第4回 2009.9.14(月)
- 第5回 2010.1.25(月)

献血推進に向けた効果的広報の開発

- 日本赤十字社 血液事業本部
- FMオオサカ
- 長崎大学病院
- はばたき福祉事業団

若者の献血者を増やすためには？

献血を知らない、身近でない、

献血に関する情報発信

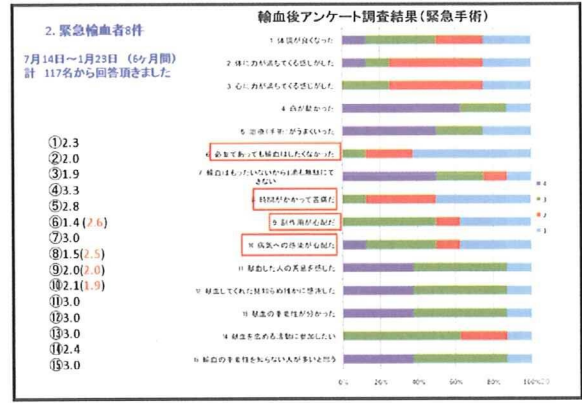
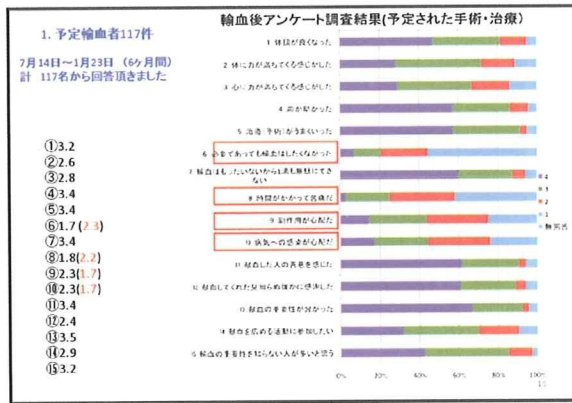
献血の意義を知らせる

伝わりやすいメッセージは？

当院における献血推進へ向けての実態意識調査
～承認から開始後6か月間の集計・解析～

長崎大学病院 形成外科 秋田定伯

長崎大学病院 看護部
血液内科 病棟師長 長池恵美
形成外科・内科病棟師長 松田三喜子



若年層献血者確保に係る広報展開
「LOVE in Actionプロジェクト」
の実施について

平成22年1月25日

日本赤十字社
NIPPON KOKU RYUUKU SHIMBU

目的

少子高齢化と400mL献血の普及啓発に伴い、若年層献血が減少する中、若年層に献血の意義を伝え、献血行動を促すことを目的に展開する。

LOVE in Actionプロジェクトとは

- ・「献血は愛です」というメッセージを届ける活動
- ・今年度から始まる日本赤十字社の様々な献血推進活動(Action)

平成21年9月28日 記者発表会！
平成21年10月1日 プロジェクト始動！
(平成22年6月30日まで)

LOVE in Actionプロジェクトとは

- Action1 ログマーク大作戦
- Action2 ラジオ大作戦
- Action3 ご当地大作戦
- Action4 コラボ大作戦
- Action5 リンク大作戦

LOVE in Actionプロジェクト&はたちの献血

はたちの献血キャンペーンは、成人として社会への第一歩を踏み出そうとしている若い方々を対象として、1976年(昭和50年)から実施しているキャンペーンで、例年1月1日～2月末日までの期間実施。
 今年は、昨年10月から始まったLOVE in Actionプロジェクトと併せての実施。

若者の献血者を増やすためには？

献血を知らない、身近でない、

献血に関する情報発信

献血の意義を知らせる

伝わりやすいメッセージは？

キミに会えてよかった
 ～長崎大学病院編～



2010年1月25日(月)
 長崎大学病院

秋田 定伯
 松田 三喜子
 長池 恵美


- ・ 訪問日 : 2009年11月19日
- ・ 時 間 : 14:00～17:00
- ・ 小児科病棟(6F西病棟)
- ・ 血液内科病棟(13F西病棟)
- ・ 形成外科病棟(11階西病棟)

訪問に対する感想

- ・ 最初は不安で面会を断ろうかと思っていたがとても楽しく忘れられない1日になった
- ・ Metisのように心から応援してくれる人がいるから、どんなに苦しくても病氣と闘い続けられる、頑張れる
- ・ 一人で闘っているのではなく、たくさんの人に支えられていると思った
- ・ 化学療法を使った治療は、決して楽なものではないけど、今日も頑張っています！今回はいつもよりも副作用が出なくて調子が良いんですよ！きっとMetisにパワーを分けてもらったおかげですね。
- ・ 誰のために使われるかわからない自分の血を提供する。感謝の言葉も直接聞けない。献血してくれる人は素晴らしい。
- ・ 献血してくださった方にお礼の気持ちを伝えたいたらどんなにいいだろう！
- ・ 輸血はMetisさんの面会の前も、昨日も今日もお世話になっています。自分のとっての命綱です。病氣が完治したら自分も献血したかったのですが、白血病のあとではできないうまく、残念です。ただ、献血や骨髓バンクに登録してくれている人、自分の知らない人が善意を持って協力してくれていることに感謝します。
- ・ Metisの歌の中に、献血してくださった方へ私達の感謝の気持ちを込めていただけたらと思っています。

献血推進のための効果的な広報戦略等の開発に関する研究

・ 愛・命・愛 “命の象徴、血液” やさしい社会

はばたき福祉事業団 大平勝美 

分担研究報告

2

供血者の実情調査と献血促進及び阻害因子に関する研究

研究分担者：山口 繁（血液事業本部献血推進課）

研究協力者：菅原 拓男（日本赤十字社 血液事業本部）

照井 健良（日本赤十字社 血液事業本部）

土田 幸司（日本赤十字社 血液事業本部）

福嶋 教綱（日本赤十字社 血液事業本部）

研究要旨

医学の進歩によって臓器移植が可能になるなど、治療における輸血用血液製剤の需要は、ますます高まる傾向にあり、今後安全な血液を如何に安定的に確保するかが重要な課題である。厚生労働省が実施した若年層意識調査の結果及び検証を踏まえて検討された「献血推進のあり方に関する検討会」報告においても輸血用血液製剤の需要の増加にも拘わらず、特に若年者層が近年、献血離れの傾向にあることが指摘されている。その理由は明らかにされておらず、献血推進における広報の効果に関する研究もこれまで実施されていない。今後、安全な輸血用血液製剤の安定的な確保のためには、献血の実情を明らかにし、その原因の解明を行い、対策を提示することが重要と考えられる。

研究目的

今後の安全な輸血用血液製剤の安定的な確保のために、献血の実情を明らかにし、10代・20代の若年層について献血離れの現象があるとすれば、その原因の解明を行い、献血推進に向けた戦略的な広報を開発することにある。需要量を上回る献血量の確保は重要であり、本研究の必要性は高い。

研究方法

メディアを活用した戦略的な広報展開として、インターネット、携帯サイト、ラジオ放送等による広報やよりインパクトのある音楽イベントによる啓発等を軸とした継続性のあるキャンペーン展開を図り、広報前後での献血行動の分析から広報の効果を評価する。献血推進の広報に必要な伝えるべきメッセージは何か、特に若年層にメッセージを伝える媒体や伝達方法などを十分に解析、検討して、広報の戦略を立て、広報の効果については献血者の属性毎の献血数の分析やキャンペーンによる広く国民からのメッセージ収集等を行い、献血の意識付けも含めた評価を行う。

研究結果

平成21年10月から平成22年6月にかけて、若年者層に献血の意義を伝え、献血行動を促すことを目的に全国統一キャンペーン「LOVE in Action PROJECT」を展開しており、以下にその結果を列記する。

① 平成21年の献血実績は5,287,101人（対前年

比+209,863人、104.1%）と高い伸びを示し、輸血用血液製剤の需要に見合った献血者の確保がなされた。

② 年代別の献血状況をみると、40～60歳代の中高齢層で増加率が高く、40歳代で対前年比108.6%、50～60歳代で同期比109.3%となっている。一方で、16歳から29歳の若年層では同期比99.0%と微減傾向を示したが、平成21年5月の新型インフルエンザの国内発生により、同年9月から12月にかけて学域献血が全国で120稼動中止（1稼動当たり献血者数70人として9,700人相当）により、他の事業所や街頭献血に振り替えられたマイナス環境を考慮すると、同年代の献血者数は対前年とほぼ同値と予測され、昨年までの減少傾向が抑制された結果とみるのが適当と判断された。

③ 献血啓発の効果の一つとして、ラジオ番組へのメッセージ投稿において、投稿総数1,500通の24.9%を16歳から24歳の世代が占めている。また、全国8ブロック（北海道、東北、関東甲信越、中部、関西、中国、四国、九州沖縄）の地域別の反応をみても、地域間格差はみられず、平均的な反応度となっている。

④ 全国の各イベント会場（札幌、仙台、名古屋、大阪、岡山、福岡、沖縄）でのアンケート調査について、16歳から24歳の回答数は全体の51.7%と半数以上を占め、若年層への献血への動機付けの観点からは十分評価できる内容であった。

考察

メディアを活用した戦略的な広報展開として、インターネット、携帯サイト、ラジオ放送等による広報やよりインパクトのある音楽イベントによる啓発等を軸とした継続性のあるキャンペーン展開として実施した全国統一キャンペーン「LOVE in Action PROJECT」については、若年層を中心に一定の効果があるものと推測される。

結論

当該キャンペーンについては、広く若年層に対しての献血への理解、動機付けをし、最終的に献血そのものへ繋げるため、今後は献血未経験者からの反応も含めたアンケート調査の詳細分析等、効果測定を継続して実施し、今後のキャンペーン展開に活用していく必要があるものとする。

健康危険情報

該当なし

研究発表


該当なし

知的財産権の出現・登録状況

該当なし

若年層献血者確保に係る広報展開
「LOVE in Actionプロジェクト」
の実施について


平成22年1月25日


日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

+ 日本赤十字社

目的

少子高齢化と400mL献血の普及啓発に伴い、若年層献血が減少する中、若年層に献血の意義を伝え、献血行動を促すことを目的に展開する。




+ 日本赤十字社

LOVE in Actionプロジェクトとは

- ・ 「献血は愛です」というメッセージを届ける活動
- ・ 今年度から始まる日本赤十字社の様々な献血推進活動(Action)

平成21年9月28日 記者発表会！
平成21年10月1日 プロジェクト始動！
(平成22年6月30日まで)



+ 日本赤十字社

LOVE in Actionプロジェクトとは
記者発表会






+ 日本赤十字社

LOVE in Actionプロジェクトとは

- Action1 ログマーク大作戦
- Action2 ラジオ大作戦
- Action3 ご当地大作戦
- Action4 コラボ大作戦
- Action5 リンク大作戦




+ 日本赤十字社

LOVE in Actionプロジェクトとは

Action FINAL!
「LOVE in Actionミーティング(LIVE)」
開催！！



大阪会場 2010.5.14 グランキューブ大阪
東京会場 2010.6.10 CCLレモンホール



+ 日本赤十字社

Action1 ログマーク大作戦
 ログマークを様々なところで展開し、1人でも多くの人に、まず活動に興味を持ってもらう。

献血会場で全来場者にステッカー配布

+ 日本赤十字社

シティスケープ（全国36都市・1364面）
 （平成21年10月26日～11月22日）




+ 日本赤十字社

モールスケープ（全国67店舗）
 （平成21年11月27日～12月24日）




+ 日本赤十字社

東京メトロ中刷り


第1弾	平成21年11月18日～11月19日	3,300枚
第2弾	平成22年1月27日～1月28日	3,300枚




+ 日本赤十字社

Action2 ラジオ大作戦
 毎週月～金（6:30～6:40）

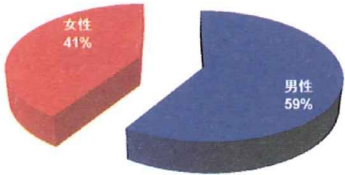
- ・献血に関する最新情報やメッセージの紹介等放送
- ・各地の放送局での出演
 仙台、沖縄、岡山、福岡、佐賀、熊本、長崎




+ 日本赤十字社

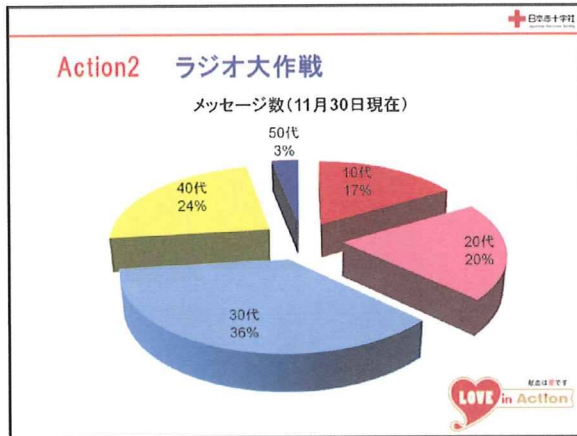
Action2 ラジオ大作戦

リスナー男女比（11月30日現在）



女性	41%
男性	59%





Action3 ご当地大作戦

各地で献血キャラバンの実施!

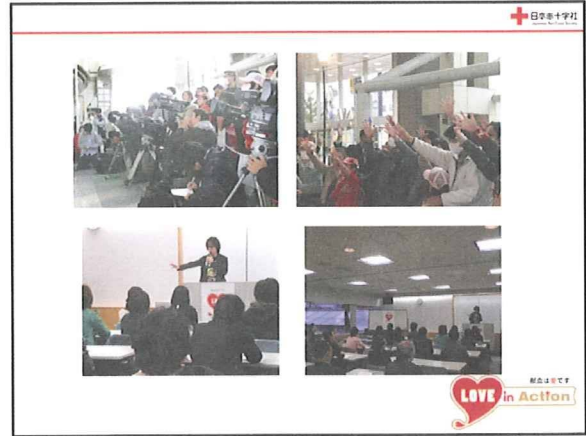
実施済み

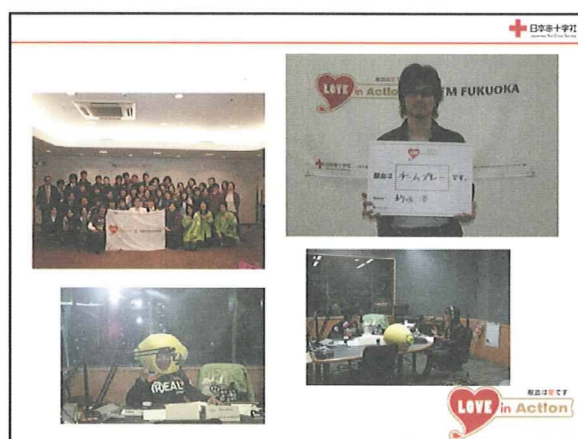
11月3日 仙台 仙台駅前アエル
 11月29日 沖縄 沖縄国際大学
 12月20日 岡山 岡山情報ビジネス専門学校
 1月11日 福岡 イオンモール福岡クル

実施予定

2月28日 名古屋
 3月21日 札幌
 3月22日 大阪

日本赤十字社
献血はです
LOVE in Action!





+ 日本赤十字社

Action4 コラボ大作戦

賛同アーティストやモデル、タレントなどの若者に支持を受ける、多くの方に参加いただき、ラジオやイベントに積極的に参加いただく。

献血はです
LOVE in Action

+ 日本赤十字社

カリスマギャルモデルが同世代の若者に呼びかけ



献血はです
LOVE in Action

+ 日本赤十字社

アーティスト「メティス」がLOVE in Actionに賛同。輸血を受けた患者さんを訪問し、その思いを込め、はたちの献血キャンペーンCMソングを製作！

長崎大学病院を訪問



献血はです
LOVE in Action

+ 日本赤十字社

プロゴルファー 石川遼選手 プロ野球 楽天イーグルス山崎選手 ソフトバンクホークス新垣選手 プロサッカー ベガルタ仙台の平瀬選手 アーティスト メティス、砂川恵理香、TEE お笑い芸人 のぼせもん モデル 小森純、板橋瑠美、ひい坊、ライ 各FM局DJ

献血はです
LOVE in Action

+ 日本赤十字社


Action5 リンク大作戦

賛同者のブログや雑誌などに協力いただき、ブログのリンクを広げていく。
献血のことを気軽に話し合えるような機会の創出。

献血はです
LOVE in Action

+ 日本赤十字社

宇多田ヒカルさんのブログ



バナーを張って
れています！

献血はです
LOVE in Action